

分析化学誌だより



竹内 政 樹

分析化学誌の編集理事を務めております竹内政樹です。本年度は、久本秀明編集委員長をはじめとする25名の編集委員、5名のアドバイザー、英文校閲担当者及び事務局が協同して編集業務にあたっています。本誌は、報文、技術論文、ノート、アナリティカルレポート、速報、総合論文、分析化学総説及びテクノレポートなどの論文種目で構成され、年8回発行しております。昨年は69報もの論文が掲載されました。ここでは、本誌の近況として、分析化学論文賞に関する出来事、初執筆論文特集及び日本国外からのアクセス状況についてご紹介いたします。

前年中の本誌に掲載された報文、技術論文、ノート及びアナリティカルレポートの中から、最も優れていると認められた論文の著者に贈呈される賞として、分析化学論文賞があります。昨年には、2023年受賞論文の「箱根温泉・大涌谷の「黒たまご」黒色物質の起源推定, 2023年, 72巻, 7・8号, 249ページ」の著者より、「黒たまご」の研究成果が新聞記事に掲載されたとして、大手新聞社の紙面やデジタル版の切り抜き電子ファイルを本誌編集委員宛にお送りいただきました。このことは、本論文賞の選定にかかわる編集委員として、とてもうれしい出来事でした。

これまで「若手研究者の初論文特集」として論文を募集してきた特集企画は、2025年より「初執筆論文特集」へと名称変更を行いました。本企画の応募資格は“筆頭著者としての初めての投稿論文であること”であり、筆頭著者の年齢は全く関係ございません。卒研究生、大学院生だけでなく、企業あるいは公設試験研究機関等に所属する方々からのご投稿もお待ちしております。また、優れた「初執筆論文」の筆頭著者には、分析化学初執筆論文賞の贈呈を予定しております。

本会会員の皆様は、和文学術誌である本誌の論文に対する日本国外からのアクセスはどのくらいとお考えでしょうか。ここに、本誌アクセスランキング担当の阿部善也編集委員が調査した結果を示します。2024年1月から9月までのFull Textへのアクセス数は、国内が213229件であったのに対して、国外は82628件でした。国外アクセスの内訳は、アメリカが12.1%と最も多く、シンガポール5.2%、中国3.5%、オランダ1.1%、ドイツ0.9%、フランスとカナダがともに0.7%と続きます。毎月50か国以上からFull Textへのアクセスがあり、国内と国外のアクセス比率はおおよそ7:3でした。国外からのアクセス数もさることながら、国内外のアクセス比率について、皆様はどう思われますか。

分析化学編集委員会では、本誌執筆者の幅を拡げるとともに本会会員の拡充を目指して、2025年より、本会非会員の方々にも積極的に投稿を呼びかけております。しかしながら、本誌面の充実を図り、本誌をより魅力的な学術誌へと育てていくためには、本会会員の皆様のご支援ご協力が不可欠です。皆様からの多くのご投稿を心よりお待ちしております。

〔TAKEUCHI Masaki, 徳島大学, 「分析化学」編集理事〕